

令和5年度 後期 ビジネス・キャリア検定試験

ロジスティクス分野
3級 ロジスティクス管理

試験問題

(13 ページ)

1. 試験時間 110 分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、受験票に記載されている試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、J I S等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和5年11月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシート（解答用紙）には、①試験区分名、②氏名、③座席番号、④受験番号、⑤生年月日を正確に記入してください。なお、受験番号の最後の桁は、アルファベットですので、数字と間違えないように注意してください。
- (7) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆又はシャープペンシルのいずれかで、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
- (8) マークシートには、所定の事項以外は絶対に書き込まないでください。なお、計算等が必要な場合は、問題用紙の余白又は裏面を使用してください。
- (9) マークシートにはア～エまでマークする欄があります。問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (10) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (11) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (12) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (13) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (14) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (15) 替え玉受験、試験中に受験者間で情報を授受する行為、指定されたもの以外のものを机の上に置く行為、カンニング行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (16) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。
- (17) 試験終了後の正解表の公表、合格発表等のスケジュールは、受験票に記載しておりますので、ご確認ください。

問題 1 物流の領域とその特徴に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．調達物流のうち、日本国内の調達先からの物流の手配に関するものについては、日本の商慣行では納入側の業務であるとし、自社ロジスティクス部門の管轄外としている企業が多い。
- イ．社内物流は、社内の物流拠点に補充する量やタイミングをコントロールしやすいことから、輸送効率を重視して構築される。
- ウ．販売物流は、自社で独自に決めた物流サービス水準で取引条件を決める。
- エ．コスト高を招く返品物流は、生産や取引条件などの物流以外の要因でも発生することから、それぞれの要因の解消にも取り組むことが肝要である。

問題 2 物流の重要性に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．日本における国全体の物流コスト（マクロ物流コスト）は、対GDP比で2割強に達している。
- イ．工場で生産された消費財は、基本的に、卸小売業や消費者などに販売されるまでの期間、在庫として倉庫等で保管される。
- ウ．新型コロナウイルス感染拡大により、物販系の国内消費者向け電子商取引は大幅に拡大し、これに伴い宅配需要も増加した。
- エ．国際競争力を増強するため、各国とも鉄道、道路や港湾、空港などの物流インフラの整備に注力している。

問題 3 企業の物流管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．物流管理とは、物流においてP（計画）、D（実行）、C（チェック）、A（アクト、改善）のサイクルを回すことである。
- イ．在庫管理は、在庫の現品管理と、欠品や過剰在庫を管理する在庫コントロールから成り立っている。
- ウ．物流生産性の管理では、倉庫内作業や輸配送などにおいて、数値で実態を把握して、目標を設定することが必要とされている。
- エ．物流システム管理とは、倉庫管理システム、輸配送管理システム等のICTによる管理体制のことを指す。

問題 4 企業の物流管理の領域に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．物流サービスは、物流システムを構築する上での与件であるため、適切なサービスレベルの管理が求められる。
- イ．物流コストは、物流システムの品質の重要な評価指標となる。
- ウ．在庫の増加は、粗利益の減少に結びつくため、適切な在庫量の維持が求められる。
- エ．物流における安全管理の対象は、ドライバーに限定されている。

問題 5 我が国におけるメーカーのロジスティクス部門と他の部門の管轄範囲に関して、
欧米などと比較した場合の一般的な記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 受注業務はロジスティクス部門ではなく、営業部門の管轄とする企業が多い。
- イ. 購買業務はロジスティクス部門ではなく、総務部門が担当している企業が多い。
- ウ. 保守業務はロジスティクス部門ではなく、技術部門として別個の組織としている企業が多い。
- エ. 工場立地先の選定には、生産部門に加え、ロジスティクス部門も関与する企業も増えている。

問題 6 荷主や運送業におけるドライバーの人材確保策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 民間の有料求人サイトにハローワークで募集している求人情報と同じものを掲載し、募集の窓口を拡げた。
- イ. 応募を増やすため、自動車運転免許の取得支援制度を設けることとし、希望する新入社員に免許取得費用として、一定額の貸付けを行った。
- ウ. 未経験者であっても幅広く採用することとし、内定から入社までの間に公的機関が実施している初任者向けの運転者適性診断を受けてもらい、適性が不足している人材は不採用にすることとした。
- エ. 女性ドライバーの採用を増やすため、荷主との協議により自動車運転業務に付随する手荷役を減らしてもらうこととした。

問題 7 以下に示す＜事例＞を踏まえた場合、A社が最初に取り組むべき物流品質の改善活動に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

＜事例＞

健康食品の宅配ビジネスを営んでいるA社では、東京と大阪の2ヵ所に物流倉庫を設置し、そこから全国の個人顧客に商品を出荷している。顧客からのクレーム件数は当初の見込みよりも多く、1番多いのは数量相違であり、2番目に多いのは商品相違であった。クレーム件数を削減するために物流品質の改善活動を実施することにした。

- ア. 数量相違、商品相違が発生している具体的な事例を集計して、誤りやすい原因を調査し、作業者を含めて対策を講じることにした。
- イ. 顧客に迷惑をかけないために、梱包工程にベテランの作業者を配置し、梱包時に時間をかけて数量相違及び商品相違を確認するために検品するようにした。
- ウ. クレームを分析したところ、数量相違は特定の商品で発生していたので、保管棚に「数量相違の発生注意」と図入りで明記することにした。
- エ. 原因究明の調査項目の1つとして、東京と大阪のそれぞれの倉庫において、数量相違及び商品相違で特徴的な差異がないかを調査することにした。

問題8 物流事業者が現在提供している物流サービスの評価とフォローアップに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．荷主からの出荷依頼の締切時刻が守られていないことが実績データから判明したので、守るように荷主に改善の依頼をした。
- イ．物流サービスの実績が競合他社よりも劣っていたので、直ちに同水準のサービスを行うこととした。
- ウ．荷主が要望する物流サービスを全て提供することは、顧客満足度を高めることにつながるので物流事業者は積極的に取り組むべきである。
- エ．物流サービスの評価では、低コストでオペレーションを実施することが最も重要な視点である。

問題9 物流品質に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．「QC7つ道具」の1つであるパレート図は、品質問題解決の重点項目や主要因を抽出する場合に用いる。
- イ．物流品質管理において最も重要なことは、ミスを犯した作業者に、二度と同じミスを起こさせないように注意することである。
- ウ．モノを届けるドライバーの言葉遣いや服装は、物流品質とは関係ない。
- エ．物流品質管理とは、場所、時間、量等を、物流事業者の望む状態に保つことである。

問題10 総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）における物流生産性向上の推進に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．手続書面の電子化や倉庫等の物流施設における自動化・機械化の推進を図る。
- イ．伝票の標準化、パレットの標準化などの物流標準化を図る。
- ウ．トラックドライバーの労働時間を削減するため、1日の拘束時間を休憩含め上限17時間とする。
- エ．荷受け先での荷待ち時間の短縮を図るため、トラック予約受付システムを導入する。

問題11 2024年4月から物流企業に適用される働き方改革関連法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

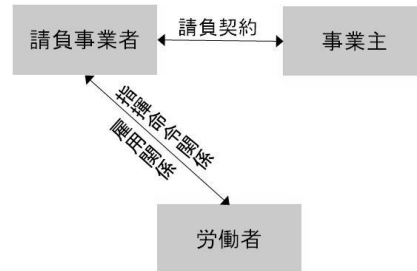
- ア．自動車運転者と特別条項付き36協定を締結する場合、原則として年間の時間外労働の上限が年960時間となる。
- イ．自動車運転の業務においては、時間外労働が月45時間を超えることができるのは年6ヵ月までとする規制は適用されない。
- ウ．自動車運転者の休息期間は、継続11時間以上を基本とし、9時間を下回らないこととするのが原則である。
- エ．自動車運転者の時間外労働と休日労働の合計について、「月100時間未満」、「2～6ヵ月平均80時間以内」とする。

問題12 労働関連法令に抵触するものは、次のうちどれか。

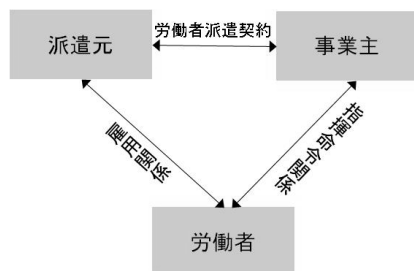
ア.



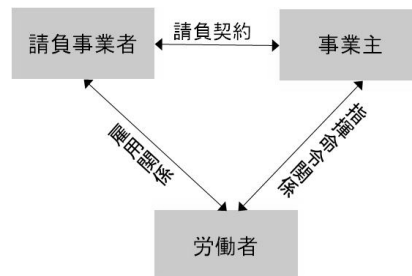
イ.



ウ.



エ.



問題13 貨物輸送手段としての鉄道の特徴に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 日本では、線路の大半が旅客会社所有であるため、貨物需要が高い路線や時間帯であっても増便が困難な場合がある。
- イ. 短距離輸送では、トラックよりもリードタイムが短くなる。
- ウ. 環境負荷（輸送トンキロ当たりCO₂排出量）が船舶に次いで小さい。
- エ. 長距離輸送では、トラックよりも運賃が割高となる。

問題14 メーカーの物流システムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 在庫削減を重視するメーカーでは、在庫保管拠点を集約化する傾向にある。
- イ. 高い物流サービス水準を重視するメーカーでは、営業拠点、あるいはその近隣の地域に在庫保管拠点を設置する例がみられる。
- ウ. 物流2024年問題等を契機に、在庫保管拠点の更なる集約化が進んでいる。
- エ. 輸入が多いメーカーでは、港湾の近隣地域に在庫保管拠点を設置する例がみられる。

問題15 デジタル式運行記録計を用いた分析に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．納品先別に、トラックが停車している時間を把握することができる。
- イ．ドライバーの操作なしでも、積み込み、荷卸しに要している時間をそれぞれ把握することができる。
- ウ．車両別及び運行別に燃費を把握することで、エコドライブの実践に役立てることができる。
- エ．加速度センサー付きのデジタル式運行記録計を用いた場合は、ドライバー別に速度超過・急発進・急停車等の実態を分析することができる。

問題16 物流拠点数を増やすことによって生じる事象に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．人件費も含めた管理費が増加する。
- イ．在庫管理が煩雑になる。
- ウ．配送リードタイムが長くなる。
- エ．在庫が増加する。

問題17 荷主企業による3PL事業者への新たな物流システムの委託に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．荷主にとって最も重視すべき項目は、運賃・料金水準である。
- イ．業務委託先の選択のための基準として、その物流事業者が現場で実作業を行う業務遂行力よりも、その物流事業者の規模や実績を重視すべきである。
- ウ．業務委託を成功させるために、荷主企業は物流改革目標を明確にして委託先に詳細な情報開示をしなければならない。
- エ．新たな物流システムの委託に際しては、自社の物流に精通している現行の物流事業者への委託を最優先にすべきである。

問題18 物流拠点に関わる物流システム効率化策に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．ロケーション管理の導入は、倉庫内作業の効率化に効果的である。
- イ．需要予測精度の向上は、保管効率の改善に効果的である。
- ウ．ダブルトランザクションシステムの導入は、ピッキングエリアの保管効率向上に効果的である。
- エ．工場からの直送化は、物流拠点の分散化に効果的である。

問題19 輸送に関わる物流システム効率化策に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．パレット化は、輸送時の実車率の向上に効果的である。
- イ．鉄道や船舶へのモーダルシフトは、リードタイム削減に効果的である。
- ウ．配送頻度の削減は、積載効率の向上に効果的である。
- エ．積載率の改善は、車両回転率の向上に効果的である。

問題20 国際輸送に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．貿易では、輸出入者間で通貨が異なる場合が殆どであるが、変動為替相場制の下では為替差損は生じない。
- イ．代金決済の代表的な方法としてL/C決済、D/P決済、D/A決済、送金決済がある。
- ウ．貨物の引き取りには、船荷証券以外に海上運送状が使用されている。
- エ．貿易条件は、インコタームズのF O B、C F R、C I Fが広く用いられている。

問題21 在庫管理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．仕掛品は、在庫管理の対象とならない。
- イ．在庫サービス率は「1－基準在庫率」で算出する。
- ウ．近年では、自然災害などのリスクに備えるために在庫を積み増す例も増えている。
- エ．在庫の入出庫、保管量状況を記録した帳票類と現品が一致することを「商物一致」という。

問題22 発注方法に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．コンビニエンスストアが、店舗の売行きに応じて週2回の商品補充を行う場合は、定期定量発注法がふさわしい。
- イ．化学品工場が、貯蔵サイロ単位で原料を調達するには、定期不定量発注法がふさわしい。
- ウ．ドラッグストアチェーンが、店頭在庫の売れた分だけ都度発注するには、不定期不定量発注法がふさわしい。
- エ．自動車メーカーが、週次生産計画に基づき製造車種ごとの部品を発注する際には、不定期定量発注法がふさわしい。

問題23 適正在庫量の決定に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．平均在庫量は、「在庫補充量／2」で算出できる。
- イ．在庫の補充リードタイムが長くなると、安全在庫量は減少する。
- ウ．安全係数を大きくすれば、欠品の可能性も高まる。
- エ．在庫の補充頻度を増やすと、最大在庫量は減少する。

問題24 在庫管理の評価指標に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．卸売業W社では、商品の在庫保有日数を減らすことによって、ROI（投資回収率）を高めることにした。
- イ．百貨店X社では、全商品に在庫保有日数の上限を設定し、それを超えた分について不動在庫として処分することにした。
- ウ．コンビニエンスストアY社では、在庫の資産効率を上げるため、死に筋商品の迅速な撤去に努めている。
- エ．スーパーマーケットZ社では、在庫回転率を上昇させるために、商品の補充頻度を上げることとした。

問題25 在庫分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．在庫保有日数と在庫量は、常に高い相関関係にある。
- イ．散布図を使えば、在庫アイテムごとの出荷頻度と1回あたりの出荷量を同時に把握できる。
- ウ．在庫品目別在庫量のパレート（ABC）分析の結果は、出荷量や出荷頻度が上位アイテムに集中することが多い。
- エ．在庫保有月数が2ヵ月であれば、年間在庫回転率は6回となる。

問題26 棚卸に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．流通業における売上原価は、「期末在庫高＋当期仕入高－期首在庫高」で算出される。
- イ．先入先出法とは、古い商品から順に払い出しがされたとして在庫高を評価する方法である。
- ウ．商品アイテム数が多い在庫の棚卸には、循環棚卸が向いている。
- エ．一斉棚卸は、商品の入出庫を止めて行うため、実施日については物流サービスの低下を避けるための配慮が必要である。

問題27 荷主における物流コスト算定・管理の仕組みの構築方法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．調達、販売等の自社の物流プロセスをフロー図等で整理し、コストが発生するプロセス毎にコストを把握することとする。
- イ．物流工程毎に、重量当たり、ケース当たりなどの物流コストを管理することとする。
- ウ．月次では、物流コストの概算額を算定し、月次予算・実績管理を行うこととする。
- エ．物流コストの正確な数値は、期末の会計監査を受けて確定することとする。

問題28 物流センターで実施する荷役作業の料金に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．納品してきたトラックのドライバーに荷役作業を行わせるには、別途荷役料金を支払うことが求められる。
- イ．荷役作業の料金として、センターの通過金額の一定割合をセンターフィーとして設定する場合がある。
- ウ．倉庫業が荷役料金を届け出るときは、一般的には入出庫、仕分け等の作業毎に料金が設定される。
- エ．荷役作業の届出料金では、物流機材利用の割増料率が法律で定められている。

問題29 トラックの運賃・料金に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．時間制運賃では、トラックドライバーの運転日報に記載された運転時間に相当する運賃が定められている。
- イ．荷主都合による長時間の待機が発生した場合には、運賃とは別に当該時間に応じた待機時間料が発生する。
- ウ．1台のトラックに複数の荷主の貨物を混載する場合の運賃である積合せ運賃は、国土交通省が告示した「標準的な運賃」において、貨物の質量及び距離帯に応じた運賃が定められている。
- エ．通販会社が個人の軽貨物事業者（貨物軽自動車運送事業者）と契約して、個人宅への宅配業務を委託する場合、適用されるのは宅配便運賃である。

問題30 物流コストの算定の考え方に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．賃借料を販売部門の経費等として処理している営業所で、空きスペースに保管している製品在庫の保管コストを、物流コストとして集計することは二重計上となり望ましくない。
- イ．食品、日用雑貨等の複数の事業部門を持つ企業においては、事業部門毎に物流コストの算定を行うべきであり、会社全体で算定する必要はない。
- ウ．営業担当者が、ルートセールスと併せて乗用車で納品を行うケースは、納品の所要時間等に応じて人件費の一部を物流コストに計上することが望ましい。
- エ．生産計画の遅れによる緊急の航空輸送によるコスト増は、物流部門の責任で発生したものである。

問題31 以下の＜事例＞に基づく物流コスト算定に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

＜事例＞

食品卸売業A社では、小売店等の顧客からの注文に応じ、固定ルート配送により商品を届けている。業務の流れとしては、前日顧客から紙で受領した発注書に基づき、従業員が庫内から商品をピッキングし、同じ従業員が配送も担当する。納品の際、請求・売掛金決済等の業務も行っている。

同社では、配送に関わる業務のみを外注する可能性を検討するため、配送コストの実態を月額で把握することとした。

- ア．人件費は、月次で各従業員に銀行振込で支給されている給与等の金額を、振込時に起票する出金伝票をもとに集計する。
- イ．各従業員に、配送・庫内・その他のいずれか主として従事している時間数を日報等で報告させ、人件費に配送業務に従事している割合を乗じて算出する。
- ウ．車両費は、定率法で求めた車両の償却費用を使用する。
- エ．燃料費は、実際に発生した燃料費に総走行距離に占める実車走行距離の割合を乗じて算出する。

問題32 以下の＜事例＞に基づくトレードオフに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

＜事例＞

アパレル企業A社は、売行きが商品の流行に大きく左右されるという業界特性により、様々な経営上の課題を抱えている。

特に大きな問題は、需要の増減により倉庫及び店頭で欠品が発生していることであり、顧客満足度の低下や販売機会損失の発生につながっている。

そのため、A社では、①店頭在庫の在庫サービス率を今よりも高めに見直す、②商品アイテム数を絞り込む、③商品の企画・製造から販売までのリードタイムを短縮する、④倉庫から店舗への納品の頻度を高める、という4つの施策を検討することとした。

- ア. ①の在庫サービス率の見直しによって、トータル在庫は増加するが、販売機会損失のリスクは減少する。
- イ. ②の商品アイテム数の絞り込みによって、商品のトータル在庫は増加するが、輸送コストは減少する。
- ウ. ③のリードタイムの短縮によって、販売機会損失のリスクは減少するが、商品のトータル在庫は増加する。
- エ. ④の納品頻度の向上によって、商品のトータル在庫は増加するが、輸送コストは減少する。

問題33 ロジスティクス情報システムの目的と特徴に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ロジスティクス情報システムは、ロジスティクス・システムの戦略・計画・管理を支援する情報システムである。
- イ. ロジスティクス情報システムは、広範な業務をカバーするものであり、調達先、販売先、委託先物流業など、多くの取引企業との情報連携を伴う。
- ウ. ロジスティクス情報システムは、業種毎に標準パッケージとして統一化されている。
- エ. ロジスティクス情報システムにおける輸送中の状況把握には、GPS、GISが用いられている。

問題34 ロジスティクス情報システムの開発に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．ロジスティクス情報システムの企業間での接続は、全ての業種を通して統一化されたコードや標準化されたデータ交換方式が利用されている。
- イ．物流データには、物量ベースと金額ベースの両方があるが、物流業務の改善には、金額ベースを中心とした物流データがよい。
- ウ．情報システムの開発に当たっては、Q（品質）が重要で、C（費用）、D（納期）は考慮する必要はない。
- エ．情報システムの開発には、自社が設計し自社で開発する場合や、外部に設計と開発を委託する場合などの方法がある。

問題35 ロジスティクス情報システムの設計・開発に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．設計・開発の第1ステップは、情報戦略の策定とシステム企画である。
- イ．設計・開発に当たっては、現在、現場で行われている作業運用をそのまま踏襲して設計・開発すべきである。
- ウ．設計・開発に当たっての企画段階では、ニーズを調査し、そのニーズ及び情報戦略に対するシステムへの要件定義を行う。
- エ．設計・開発する上での要点は、目的の明確化、的確なICTの利用に加え、物流現場・利用者の参画等である。

問題36 バーコードに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．JANコード（GTIN）で用いる事業者コードは、企業が独自に決めることができる。
- イ．ITF（GTIN-14）には、入数や荷姿などを識別するコードが2桁ある。
- ウ．GS1-128は、食品の賞味期限管理には使用できるが、電気機器などの製造番号の表示はできない。
- エ．飲料水やビールをケース買いする際にレジで読み込むのは、外装ケースのJANコード（GTIN）である。

問題37 受注処理システムに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．顧客の発注データを処理する受注処理システムは、在庫不足などで出荷ができない場合には使用されない。
- イ．注文入力の方法には、①直接入力、②媒体経由での入力、③オンライン入力の3通りがあるが、インターネットが広く普及した今日では、直接入力はほとんど使用されなくなった。
- ウ．顧客からオンラインで受注する方法は効率的であるため、多くの製造業が統一化されたウェブE D Iを用いている。
- エ．受注処理システムは、オーダーの受付と注文入力だけでなく、在庫の引き当ても行っている。

問題38 発注方法に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．受注側（仕入れ先・納入事業者）が発注内容を決定するV M Iにおいては、発注側にはメリットがあるが、受注側にはメリットがない仕組みである。
- イ．小売業と納入事業者（卸売業又はメーカー）とが協働して需要予測を行い、発注量を決定するC P F Rにおいては、需要予測結果は修正せずに、全てそのまま発注数として使用する。
- ウ．コンピュータによる自動発注を行うC A Oでは、発注作業をより効率化するために、扱う商品の全てをC A Oの対象とする。
- エ．チェーンストアにおける電子発注システムであるE O Sの利用では、本部が卸売業者やメーカーへ取りまとめて伝送する形態として、「小売業者の本部から直送」、「窓口卸売業者・3 P L事業者経由」、「共同受注センター経由」及び「V A N（付加価値通信網）経由」がある。

問題39 ハンディ端末（H H T）を用いた倉庫内作業管理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．入出庫検品やピッキングの作業開始・作業終了時刻を担当業者ごとに記録することにより、グループ別や保管エリア別の作業品質分析が可能になる。
- イ．当日のピッキング総数とハンディ端末から得たピッキング完了数をリアルタイムで比較することにより、ピッキング作業の進捗状況が把握できる。
- ウ．検品や納品時に判明したエラーについて、そのエラーが発生した状況を詳細に把握することにより、作業生産性分析が可能になる。
- エ．作業の総量と生産性データの基準値から、当日の必要作業人時を予測することにより、物流A B Cができる。

問題40 輸配送管理システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．配送・配車計画システムの導入により、同システムの出力結果をもって配車担当者はそのまま運行指示を行えるようになる。
- イ．車載端末を用いた運行管理システムの導入により、運転日報の自動作成が可能となる。
- ウ．現在主流となっている求荷求車システムは、インターネット上において、幅広い業種業態の企業の求荷情報と求車情報から最適な組合せを自動検索し、マッチングさせることができる。
- エ．宅配便における荷物追跡管理システムでは、利用者はインターネット上で運送伝票番号などを入力することにより、リアルタイムで荷物の位置を正確に把握することが可能となる。